



五 中臣祓紀解

なかとみのほらえきげ

漢朝祓起三月三日上巳

かんぢょうのほらえきんがつ
みつかじょうしのおこりあり

図書館所蔵、黒川本一三六号。写本一冊。線装本四ツ目綴。栗色布目の表紙。縦二六・五糎、横一八・九糎。本文巻頭に「中臣祓紀解」とあり、本文首葉に「國學院大學図書館蔵」「温故堂文庫」「和学講談所」「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」の印記あり。墨付十七丁。題簽に肉筆で「中臣祓紀」とある。書扉に「中臣祓紀解」とある。料紙は斐楮交漉。『中臣祓記解』（十四丁）につづいて『漢朝祓起在三月三日上巳』（三丁）と合綴。

※

※

前出の『中臣祓記解』と同文。前出の解説を参照のこと。奥書は「于時、永禄元戊午年四月写之畢」とある永禄元年（一五五八）本の転写本。永禄書写本の系統に、名古屋市蓬左文庫本・筑波大学図書館本がある。

後者の『漢朝祓起在三月三日上巳』は、中国漢朝における禊祓の由来を述べ、両部神道の諸文献により伊勢両宮に関する諸説を類聚したもので、度会氏により両部神道の諸説を覚書風に記したものと推定される。同書は『中臣祓訓解』及び『中臣祓記解』、『天地靈覚秘書』との類似文が多くみられ、両部神道と伊勢神道との深い繋がりを確認することができる。度会行忠撰『伊勢神名秘書』にも「三月上巳祓発云」と題して、同書の一部を引用している。

奥書に「建長七年九月十三日、実忠写之、／禰宜正四位上度会神主常良拝写」とある。前書の度会常良本『中臣祓記解』にも建長七年（一二五五）の同日（黒川本は「八月十三日」とあるが、諸本は「九月十三日」）、実忠によって書写されている。実忠は禰宜度会惟房の養子となる。黒川本『記解』の書写歴に「神主実忠」とあるが、神主（禰宜）への昇任は確認できないので、権神主止まりと思われる。

（岡田莊司）

【所収本】

『漢朝祓起在三月三日上巳』は、岡田莊司「両部神道の成立期」、『神道思想史研究』安津素彦博士古稀祝賀会）に所収（底本は黒川本、蓬左文庫本を以って校合）、昭和五十八年（一九八三）

【参考文献】

右論文参照